



ピックアップ

12月定例会の提出議案から

補正予算

「主な項目」

〔歳出〕

戸籍住民基本台帳費 戸籍住民基本台帳費

1222万円

●この補正の内容は

マイナンバーカード取得促進のため、臨時職員2名の賃金等の経費を計上したものの、申請時に必要な書類が多く、大きな負担となる。文章だけでなく図解などの取り入れを検討し、普及活動を行う。



市役所に設置されているパンフレット

子育て支援費 子どもの居場所整備事業

52万8000円

●この補正の内容は

(仮称) b&g 燕吉田南メートの令和2年4月以降の運営開始に向けた準備(3月から新しい建物での開設準備)を行うための経費を計上するもの。

生活保護総務費 生活保護適正実施推進事業

467万円

●この補正の内容は

昨年度制度改正した「就学準備給付金」「生命保険会社に照会する様式の統一」「生活保護の調査項目追加」の3点のシステム改修等を行う。

障がい児通所支援費 障がい児通所支援費支給事業

362万3000円

●この補正の内容は

増額となった経緯は、4月以降新たに市外に3カ所の放課後デイサービスを始める事業所ができ、市内のお子さん5名が通うようになったため。

観光費 産業史料館施設管理運営費

222万8000円

●この補正の内容は

入館者の増加のため、体験工房館の利用が好調で体験用の材料などの不足により増額したが、それ以上に体験参加費の収入が増えている。



にぎわいを見せる体験工房館

34本

ミニコラム 基本計画の話

「建前の役所」と「本音の議員」

市町村は、法に基づき計画書を策定しなければならないとされているが、燕市ではその数なんと34本。市が作成した計画書にかかった費用は、全部で約1億2200万円。中でも一番高いものは都市計画マスタープラン(15年間)で約3200万円にもなる。

◆かみ合わない議論……

国・県の方針に基づいてつくられた計画は、金太郎飴のようにいずれの市町村もよく似ており、建前の文章が並ぶ。議員は本音で「こんな計画は無理だ」美辞麗句の建前論を指摘、批判するが「おっしゃるとおり」と言いながらも国・県の方針には逆らえない職員たちの答弁。建て前と本音のかみ合わない議論が続く。なぜこんなことをするかといえば、計画書がないと国・県の交付金や補助金がもらえないということだ。

